

# 千葉県教育委員会会議議事録

令和3年度第3回会議（定例会）

1 期 日 令和3年6月16日（水） 開会 午前10時30分  
閉会 午前11時25分

2 教育長及び出席委員  
教育長 富塚 昌子  
委員 井出 元  
岡本 毅  
貞廣 斎子  
花岡 伸和  
永沢 佳純

3 出席職員

教 育 次 長	山口 新二
教 育 次 長	伊藤 賢
企画管理部	
企 画 管 理 部 長	長谷川 聡
企 画 管 理 部 次 長	武内 貢一
教 育 総 務 課 長	中西 健
財 務 課 長	勝 直人
教育振興部	
教 育 振 興 部 長	浅尾 智康
学 校 危 機 管 理 監	日根野達也
教 育 振 興 部 次 長	海宝 伸夫
学 涯 学 習 課 長	鈴木 真一
学 習 指 導 課 長	佐藤 晴光
教 師 職 員 課 長	富田 浩明
体 育 課 長	伊藤 政利

#### 企画管理部

教育総務課主幹兼文書・情報室長	加藤 浩史
同 副主幹	北口 純子
教育政策課主幹兼教育広報室長	戸崎 将宏
財務課予算班長	中澤 力生
同 副主査	小原 慶太
同 副主査	新井 翔太

#### 教育振興部

学習指導課主幹兼高等学校指導室長	高梨 祐介
同 主席指導主事	神崎 勝弘
同 指導主事	森田 雅則
学習指導課義務教育指導室長	石川 康浩
同 指導主事	吉原 孝典
教職員課小中学校人事室任用班長	竹田健太郎
体育課指導主事	山口 武

#### 事務局

企画管理部教育総務課	
主幹兼委員会室長	佐藤 祐児
同 副主幹	山口 聖剛
同 主査	赤羽 大輔
同 主査	齋藤 智史

#### 4 教育長開会宣告

#### 5 署名人の指名 貞廣 斎子 委員

#### 6 令和3年度第2回教育委員会会議（定例会）議事録の承認

#### 7 議題の宣告及び非公開の決定

本日の案件は、第5号報告から第6号報告の報告議案2件、報告1から報告3の報告3件である。

第6号報告は、教育委員会会議規則第13条第1項第四号「知事又は議会に対する意見の申し出等」に該当することから、非公開により審議する。

#### 8 進行役の氏名

千葉県教育委員会会議規則第27条の2の規定に基づき、ここからの進行を井出委員にお願いする。

#### 9 審議事項

#### 第5号報告 教育委員会所管に係る令和3年度6月補正予算案について

##### 【財務課長】

教育委員会所管に係る令和3年度6月補正予算案の概要について説明する。議案1ページを御覧いただきたい。

本件は、令和3年度6月補正予算案を知事が議会に提出するにあたり、予算案のうち教育委員会所管に係る歳入歳出予算について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定により、令和3年5月27日付けで本委員会に意見が求められたが、教育委員会会議で審議してもらう時間がなかったことから、千葉県教育委員会行政組織規則第6条第1項の規定により、教育長が臨時に代理し、議案2ページのとおり、6月1日に知事に対して、本委員会として異議ない旨、回答したことを報告するものである。

議案資料1-1ページを御覧いただきたい。教育委員会所管に係る補正予算額は、一般会計で、4億1,882万1千円の増額であり、補正前の額と合わせると予算額は、3,706億4,143万3千円となっている。

なお、性質別内訳、項別内訳、財源内訳については、ここに記載のとおりである。

次に補正予算案に係る内容について説明する。議案資料1-2ページを御覧いただきたい。

「新学習用ネットワーク整備事業」は、全県立学校において、高速大容量通信が可能となる新たなネットワークを整備するため、7,920万円の増額を行うとともに、運用保守や回線費用について、債務負担行為を設定する。

「学びの未来デザインシート事業」は、これからの社会で求められる「考える力」を試すテストとして、公立小中学校を対象に千葉県独自で実施するもので、3,500万円の増額を行うものである。

「特別支援学校スクールバス感染症対策事業」は、今年7月まで増車することとしていた小型バスについて、今年度末まで引き続き増車するため、1億7,262万1千円の増額を行うものである。

「子供たちの心のケア等を行う体制の強化」は、児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、スクールカウンセラーを全公立小学校に配置するとともに、スクールソーシャルワーカーも増員するため、1億3,200万円の増額を行うものである。

#### 【富塚教育長】

今回の6月補正予算では、県全体では補正額が1,857億1,900万円であった。このうちのコロナ感染症対応の経費として、535億6,500万円がある。このコロナの関連の経費のうち、404億円は医療機関や宿泊医療施設、ワクチン接種を行う市町村への支援など、医療提供体制の関連で、その他の感染症対策経費として131億円がある。

特別支援学校のバスは、その他の感染症対策の経費として計上している。

この他、担当課長から説明したとおり、学力向上への効果を狙ったデザインシートや、高校へのネットワーク整備の予算などがある。

これらについては、議会で承認され、予算がついて終わりという訳ではなく、今後の運用を検証し、見極めていく必要があると考えている。

引き続き、教育委員と取組状況などを随時情報共有しつつ、意見を募りながら進めていきたい。

#### 【貞廣委員】

子どもたちの心のケア等を行う体制の強化について、スクールカウンセラーを全部の小学校に配置するということが、中学校には全部配置されているということが良いか。

また、1小学校あたりどの程度配置されるのか。

#### 【財務課長】

中学校については、当初予算で全校配置をしている。今回の補正予算で466人を措置するが、月1回1日6時間程度の勤務を想定している。当初で配置したスクールカウンセラーについては、隔週1日6時間程度の勤務を想定した予算となっている。当初で配置したところは隔週1回、今回補正で配置するところは月1回の勤務となる。

#### 【貞廣委員】

予算にも限界があるので、メリハリをつけることになると思うが、その頻度で小学校のカバ

一になるか、しっかりと検証してほしい。

学校によって事情が違ふと思うが、出来るだけ小学校の問題解決の要望に応えられるような方向で、検証と併せて進めてもらいたい。

第5号報告は終了。

## 報告1 令和3年度千葉県公立高等学校入学者選抜学力検査の結果について

### 【学習指導課長】

令和3年度千葉県公立高等学校入学者選抜学力検査の結果について説明する。報告資料1ページを御覧いただきたい。

令和3年度選抜から、これまでの前期、後期選抜を一本化した新しい制度がスタートした。本検査を2月24日及び25日に、インフルエンザ等やむを得ず本検査を受けられなかった受検生を対象に3月3日に追検査を実施し、3月5日に合わせて入学許可候補者を発表した。その後、定員に達しなかった学校を対象に、第2次募集及び定時制の課程の追加募集を実施した。また、昨年度は新型コロナウイルスの影響を受け一回も受検の機会がなかった受検生を対象に特例検査を実施した。これらの結果、表のとおり入学許可候補者が確定した。

全日制の課程は、県立千葉中学校、東葛飾中学校及び市立稲毛高校附属中学校からの内部進学予定者240人を除いた、募集人員30,920人に対し、入学許可候補者数は、本検査・追検査併せて、28,988人、2次募集で179人、特例検査で1人の、合計、29,168人であった。

定時制の課程は募集人員、1,232人のところ、入学許可候補者数は追加募集までを含め、689人となった。また、最下段にある通信制の課程は、現在1期～3期まで終了しており、133人の入学許可候補者を確定している。

なお、令和3年度入学者選抜については、今後、3部制定時制の課程で秋季入学者選抜を8月23日に、通信制の課程で4期選抜を9月8日に実施する予定である。

続いて、学力検査の結果の概要について、別冊資料を基に説明する。この冊子は学力検査を実施した5教科の得点や教科ごとの出題方針、問題別の正答率や得点の分布等をまとめたものである。

冊子2ページ「4 学力検査問題の特徴」を御覧いただきたい。本検査、追検査とも5教科の学力検査を実施している。令和3年度の問題については、長期にわたった臨時休校をはじめ新型コロナウイルスの学習活動への影響を考慮し、一部出題範囲を縮小したが、出題は中学校学習指導要領に基づき総合的な力を見ることができるよう、基礎的・基本的な事項の正確な理解度を見る問題、学習した基礎的知識を応用して答えを導く問題、思考力判断力表現力を総合的にみる問題となるよう工夫している。

3ページを御覧いただきたい。5教科の平均点、合計点を示してあるが、令和3年度の追検査については受検者数が8名と少なく、本検査と比較する上でのデータが十分ではないため、記載していない。

本検査については、4ページから15ページに、教科ごとの出題方針や各教科の問題ごとの正答率等を示した。特徴として、全ての教科において、基礎的・基本的な事項の正確な理解度を見る問題については、概ね高い正答率を示している一方、学習した基礎的知識を応用して答えを導く問題、思考力判断力表現力を総合的にみる問題、特に記述式問題では、正答率が低い、あるいは無答率が高いといった傾向が見られる。

14ページを御覧いただきたい。令和3年度から英語の試験時間をこれまでの50分から10分伸ばし60分とした。これは、受検生がリスニング以外の問題に取り組む時間を、十分確保できるように配慮したものだが、出題形式や問題数が前年度までの前期選抜と同じだったことから、前年度と比べ、聞くこと（リスニング）の正答率が1ポイント程度の上昇に対し、読むこと及び書くことの正解率はそれぞれ10ポイント以上増加している。

16、17ページには各教科及び5教科合計の得点分布を掲載した。追検査については、18ページから27ページに出題の内容を示してあるが、受検者数が少なかったことから、正答率等については記載していない。

例年この冊子は、県内すべての公立中学校及び高等学校をはじめ関係機関に配布し、生徒の学力の把握や今後の指導改善に活用してもらっている。また、県教育委員会のホームページに掲載し広く県民に周知することとしている。

なお、今年度についてはこの冊子に加え、無答率の高かった問題に着目し、課題を明らかにした上で、教師には指導上のポイントの形で示し授業改善が進むよう、また、生徒には学習のポイントとして示し、記述する力を伸ばす学習に効果的に活用できるリーフレットを作成しており、できるだけ早い時期にホームページ上に掲載し、生徒一人一人がタブレット端末等を利用して自発的に取り組めるようにしていく。

#### 【貞廣委員】

入学者選抜の学力検査として、平均点を6割程度、得点分布が正規分布に従うと想定して問題作成をしていることと思うが、英語の得点分布が他の教科と比べ特異である。

標準偏差が大きい上に、標準偏差プラスマイナス1点の外側にピークがあり、「ふたこぶ」の形になっている。また、ピークが右にあり、ピークの左側の幅が広がっていることから、問題は難しいものではないと考える。

このことから、学力、学習の定着に差があり、学力格差があるといえる。中学校段階の英語の学力定着に課題があると考えられる。「なぜ」、「誰が」、「何を」できないのか、どんな手立てが講じられるかを、データから導き、中学校と高校で情報交換して、子供たちができてうれしいと感じられるよう、詳細な分析をお願いしたい。

#### 【学習指導課長】

指摘の通り、グラフの右側のピークが高得点の階級にある。指摘を踏まえて検証していく。

報告1は終了。

## 報告2 全国学力・学習状況調査について

#### 【学習指導課長】

令和3年度全国学力・学習状況調査について報告する。報告資料2ページを御覧いただきたい。

5月27日に、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象として、国語、算数・数学の教科に関する調査と、児童生徒質問紙調査及び学校に対する質問紙調査を悉皆調査として実施した。

千葉市を除く実施校数は、市町村立小学校及び義務教育学校前期課程（特別支援学校小学部を含め）648校、市町村立中学校及び義務教育学校後期課程（特別支援学校中学部と県立中学校を含め）310校、合計958校です。

当日実施できなかった学校は、小学校2校、中学校8校である。理由としては、「新型コロナウイルス感染症による臨時休業のため」が小学校、中学校1校ずつ、「学校行事のため」が小学校1校、中学校7校であった。なお、実施できなかった学校については、5月28日～6月30日までの期間が後日実施期間と設定されている。後日実施の場合、結果の返却は行われるが、参考値扱いとなる。

今年度の主な変更点は、2点である。1点目は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、実施日程が約1ヶ月先送りとなったことである。

2点目は、本体調査に加え、3年に1度程度実施されている経年変化分析調査（抽出）及び保護者に対する調査（抽出）が後日実施されることである。

今後の取組としては、まず、児童生徒の学力や学習の状況、課題等を把握するとともに、学習指導の改善・充実等に向けた取組が各学校で円滑に実施できるよう支援していく。

例年、各教育委員会や学校に配付している県全体の分析結果を示したリーフレットでは、新たに、授業において効果的な ICT 機器の活用例を掲載し、本調査結果を踏まえた授業改善ができるように支援していく。

なお、結果の公表については、一昨年度と同様、「調査により測定できるのは学力の特定の一部であること」、「学校における教育活動の一側面であること」などから、教育上の効果や影響を考慮し、個々の市町村名、学校名を明らかにした調査結果の公表は行わない予定である。

今後とも、県教育委員会としては『『学力向上』総合プラン』の各事業の充実・推進を図るとともに、各教育委員会及び各学校が、調査結果を活用し、教育施策や授業の改善、児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげられるよう支援していく。

報告 2 は終了。

### 報告 3 令和 4 年度公立学校教員採用候補者選考の志願状況について

#### 【教職員課長】

令和 4 年度公立学校教員採用候補者選考志願状況について報告する。報告資料 3 ページを御覧いただきたい。

志願状況は、募集人員の合計約 1,600 人に対し、志願者数の合計は 5,271 人となり、志願倍率は約 3.3 倍となった。志願者数の内訳は、小学校は 1,579 人で志願倍率は 2.5 倍、中学校と中・高共通枠は 2,756 人で志願倍率は 3.8 倍、特別支援教育は 417 人で志願倍率は 2.5 倍、養護教諭は 327 人で志願倍率は 6.5 倍となった。

志願者数の変化を見ると、小学校で 92 人、中学校と中高共通枠では 115 人、特別支援教育では 78 人の減少となり、志願者総数で 293 人の減少となった。

志願者の減少については、関東近県も同様の傾向である。小学校や中高理科、特別支援教育の志願者の減少が大きく、優秀な人材確保の観点から大きな課題と捉えている。

しかし、志願倍率で見ると、募集人員との関係から横ばい、または微増となっている。

今後の採用選考の日程は、第 1 次選考は 7 月 11 日（日）、第 2 次選考は 8 月下旬に行い、最終合格発表は 10 月中旬を予定している。

#### 【花岡委員】

他県の志願倍率の状況はどうか。

#### 【教職員課長】

他県の志願者数については、東京都で 996 名、埼玉県で 302 名、神奈川県で 322 名の減少となっている。

報告 3 は終了。

### 委員報告 県立美術館の視察について

#### 【井出教育長職務代理者】

5 月 19 日に、私が県立美術館に視察を行ったので報告する。

文化財課の副課長の随行で視察をした。館長、副館長、庶務課長、普及課長との見学前の打ち合わせで、現在の美術館の取組状況や課題、また今後の方向性の説明を聞き、理解することができた。

私は時折、美術館・博物館を訪れることがある。見学する者の興味関心が高い展示室のみを見て終わることが多く、自身の知識の範囲でしか見てくることができないと感じていた。

しかし、今回は副館長が作品一点一点ずつ説明を加えて案内してくれたことで、企画する側、運営する側の思いを理解しながら見学することの重要性を再確認することができた。

ワークショップなどが、多くの団体や個人の発表の場となっており、年間80団体が発表していると聞いた。作者にとっては発表の場があるということが大きな意味があるので、そういった点からも美術館の意義を感じた。

また、館長から、「作者は、自分が作品を作っている時代よりも前の伝統的な文化を学んでから作品作りを始める。」という説明があった。例えば、絵画の分野では、多くの作者は模写からスタートしている。この説明から、美術館はただ単に美しいものを見る場所ではなく、日本に伝わってきた美意識が受け継がれている場であると考えることができた。

千葉県の第3期教育振興基本計画の基本理念に「人間の強み」という言葉がある。この言葉は漠然として聞こえるが、人間の持っている感性や創造性といった点も含まれているととらえている。そういった点を育むという意味で美術館は大切な役割を持つと感じた。

教師も美術館や博物館を訪れて、自身の資質を高めほしい。授業技術の面だけではなく、人間性を磨いてほしい。

委員報告は終了。

<傍聴・報道 退出>

## 第6号報告 損害賠償の額の決定及び和解の原案について

教育総務課長の説明後、協議を行い、原案どおり可決した。

### 10 その他

#### 【富塚教育長】

井出教育長職務代理者におかれては、御多用のところ、県立美術館への視察に対して感謝申し上げます。県立美術館については、来館者の年齢層に偏りがあると報告を受けている。若い方に足を運んでももらえないことは課題であると認識している。昨年度までも専門家に意見を聞きながら、美術館の今後の姿を検討しているところである。

先日、学芸員の方々と対話したが、それぞれがテーマを掲げ研究に励んでいることが分かった。学芸員の研究の成果を県民や子供たちに発表することで、美術館の教育力や県民への美術館の親しみやすさを醸し出せる。また、学芸員のモチベーションアップにつながる。

### 11 教育長閉会宣告

令和3年7月21日 署名人